

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成28年1月9日 (21:00 ~22:30)
1. 初期支援(はじめのかかわり)	メンバー	中川佑治 柳田裕子 寺田美枝子 小池愛 若松健司 東田良弘 西井孝昌 一色京子 大浦由紀 浜道美由起 中西暢久 田口めぐみ 山縣弘美

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	1 人	9 人	人	人	10 人

前回の改善計画
スタッフ間で話し合いをし、利用前の初期の段階の情報としては、信頼関係が出来ていない中で、これ以上の情報収集は難しいのではないかと、という意見が多かった。利用前の情報の共有については現状でも十分共有できている。ただ、利用してしばらくの間、利用者の様子を見ながら手探りでスタッフが対応している部分も多いので、利用しながら、もっとその方の性格や生活面や介助方法、また自宅での様子や対応、家族との関係性等、細かな記録を残し情報共有していく。その中で今後の声かけや対応についてカンファレンスをする頻度を増やしていく事とする。
前回の改善計画に対する取組み結果
利用前の情報については現状でも十分共有できている。ただ、本人が利用して慣れていく間でのアプローチはまだまだ改善できると思われる。認知症等の症状や性格を考慮した関わり方やケアの方法が中心となっており、生活面を意識した対応はまだまだ不足している。ケアの方向性や対応等について、もっとスタッフ間での話し合いや情報共有をしていく必要がある。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	6	4			10
② サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	2	8			10
③ 本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いで声掛けや気遣いができていますか?	2	8			10
④ 本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	1	9			10

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
①利用前に面談等で、家族や本人、また、本人を知る方から利用者の情報を集め、ミーティング等で周知している。ミーティングができない時もフェースシートや連絡帳を活用し情報を共有している。最初は根掘り葉掘り、聞き取りできない所もあるが、不足の分は利用中の情報などや追々聞き出していき等し、スタッフ間で共有している。②本人や家族が、現在困っていることや必要としていることを確認し、それを最優先に考え、個々にあった利用方法やサービス、ケア等を提供している。③慣れていない時期は、本人が不安にならないように声をかけたり、無理強いないように対応している。また、通いサービスに導くために、訪問からはじめて体験利用の様子をみたりと個々によって工夫をしている。初めてのスタッフが訪問に行くとき等は、一度、対応したスタッフと一緒に訪問や送迎に行くなど気遣いをしている。④送迎時や連絡帳を活用し、家族への報告をこまめにおこなっている。情報交換をして共有することで、不安を少しでも解消できるよう、日々努めている。また、家族等が困っていること等、早急な改善や対応ができるよう努めている。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
①介護に関わる点やおおまかな情報は共有できているが、生活面や習慣、馴染み等に関する情報や細かい部分の情報があまり共有できていない。また、利用者によっては、急な利用であれば情報が不足していることがある。②利用前に情報が少ないと、支援をしながら、様子をさぐり対応している時もある。また、認知症で自分の想いを伝えられない方等は、家族のニーズ中心になっている部分も多い。③利用前に情報を共有しているが、関わり方に対してスタッフ間でまとまっていないことがあり、個々のスタッフによって気遣い、声かけが異なり、気遣いが不足していることもある。また、慣れていない時期のアプローチについてもまだ改善できると思われる。情報共有(記録)が不足しているため、もっと共有することで今後のケアについて検討できると思われる。④ミーティングや記録等で周知しているが、家族と関わりのあるスタッフしか把握できていない部分がある。家族との関わりの中で、不安な部分や想いを受け止め、記録に残し、スタッフ間で情報を共有していく必要がある。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
初回の情報共有やカンファレンスだけでなく、利用して慣れてきた段階で、個々の利用者の様子や対応について、もっと話し合う機会を作っていく。関わり方に対しても、スタッフ間でまとまっていないことや方向性が定まっていない部分もあり、それに伴い、気遣いが不足していることもある為、日々の様子や本人との会話の中で得た情報を、しっかりと記録に残し、スタッフ間で情報共有し意見交換する場を増やし、よりよい対応につなげていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成28年1月9日 (21:00 ~22:30)
2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)	メンバー	中川佑治 柳田裕子 寺田美枝子 小池愛 若松健司 東田良弘 西井孝昌 一色京子 大浦由紀 浜道美由起 中西暢久 田口めぐみ 山縣弘美

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	人	9人	1人	人	10人

前回の改善計画
家族と利用者の意向や思いが違ふことでスタッフの思いや対応がずれていることもあり取り組めていないこともある。また、現状のケアプランにおいて、身体的な面での内容が多いのもあり、今後は利用者の生活習慣、生活環境、なじみの環境や人とのつながり等、もっと生活に目を向けていく。そのために、一度、ケアマネジャーのモニタリングに各利用者の担当のスタッフが同行し、実際に、本人や家族と話をしアセスメントをしていく。そして本人のこともっと知り考えていけるよう情報収集していく。その中で、利用者・家族の思いを確認し、ケアプランの内容が生活面を取り入れた、より具体的な形にしていく。そして、随時、振り返りし対応を見直ししていく。
前回の改善計画に対する取組み結果
担当スタッフもモニタリング時に同行し、家族から話を聞いたり取り組んだが、全スタッフで共有できていない部分がある。また、家族と本人の意向やスタッフの思いがずれていることもあり、取り組めていないことも多い。目先のことしか理解や対応できていないこともあり、生活習慣や生活環境、つながり等の生活へのアプローチがまだまだ足りていないのが現状である。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 「本人の目標(ゴール)」がわかっていますか?		9	1		10
② 本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?		8	2		10
③ 本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?		6	4		10
④ 実践した(かかわった)内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?	1	7	2		10

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
①利用者や家族との話を元にケアプランを作成し、ケアプランにて目標を明確にしており、そのケアプランの内容は全スタッフが確認できる状態である。また、随時、スタッフ間でもカンファレンス等を実施し確認し合っている。②利用者や家族との話を元にケアプランを作成し、ケアプランにて目標を明確にしており、そのケアプランの内容は全スタッフが確認できる状態である。担当者会議に本人や家族も参加し、目標を確認している。利用者その時々にあった思いやケアの内容を理解し対応している。③スタッフ間で話をし、利用者の目標・希望に対して、日々、時間を見つけ関わっている。利用者においても関わりができていない人、できていない人と個人差はあるが、各担当中心に、「～したい」という目標を目指した関わりをするよう心がけている。④利用者個々によって、活かしている人、活かしていない人というが、各担当を中心の問題点や疑問点等、スタッフ間で情報交換し、ミーティングやカンファレンスにて利用者への対応を随時、振り返りや見直しをしている。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
①～④利用者によってできている人、できていない人というのが現状である。それは、各利用者担当のスタッフの意識の差もあり徹底できていない部分がある。利用者によっても声を発する方はわかりやすいが、本人の意向が掴みにくい方もいるのが現状である。本人のアプローチに気づかないこともあったり、本人と家族の間に思いや意向のズレもあり、家族の意向が優先されている部分もあると思う。また、利用者の状態の変化に応じてケアプランが変更できていないことや、内容も達成できないような設定、もしくは、当たり前目標になっていることがある。また、生活面や希望の部分への対応やアプローチが少ないようにも感じる。それは、日々をなんとなく過ごしてもらい関わっているだけで、もっとその利用者個々人を知ろうとしていないことも原因であり、スタッフがもっと利用者を知るために、生活歴や習慣、なじみの環境、人とのつながり等を理解した上で、利用者に関わり、声に耳を傾けていく必要がある。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
今後も引き続き、各担当中心に、日常の様子やケアマネジャーのモニタリング時に定期的に同行し、情報収集していく。全スタッフが全利用者のことを理解することは難しいかもしれないが、各担当中心に知り得た情報等は他のスタッフにも発信していく。その中で、日々を何となく過ごしてもらったり、目先のことの理解や対応だけでなく、本人の希望や思い、生活を継続していくために必要なことを理解し、対応や関わりにつなげていく。それらを状態に応じて、ケアマネジャーや各担当中心に話し合いをし、見直しをしていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成28年1月9日 (21:00 ~22:30)
3. 日常生活の支援	メンバー	中川佑治 柳田裕子 寺田美枝子 小池愛 若松健司 東田良弘 西井孝昌 一色京子 大浦由紀 浜道美由起 中西暢久 田口めぐみ 山縣弘美

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	1人	8人	1人	人	10人

前回の改善計画

スタッフ同士で利用者の捉え方の統一や、自宅と施設利用時の対応とを連動して考えていけるようにしていく。そのためにも、様式2と同様、生活習慣・生活環境等や何を望んでいるのかを知るため、ケアマネジャーのモニタリングに各利用者の担当スタッフが同行しアセスメントをしていく。ケアプランの内容を生活面や希望を踏まえた具体的な形にしていき、随時、話し合いをしながら本人の状況に応じた対応や支援をしていく。

前回の改善計画に対する取組み結果

担当スタッフもモニタリング時に同行し、家族から話を聞いたり取り組んだが、全スタッフで共有できていない部分がある。また、家族と本人の意向やスタッフの想いがずれていることもあり、取り組めていないことも多い。目先のことしか理解や対応できていないこともあり、生活習慣や生活環境、つながり等の生活へのアプローチがまだまだ足りないのが現状であり、もっと家族や利用者とのコミュニケーションを図り聴きだすことが必要である。モニタリング時の担当スタッフの同行に関しても、単発での取り組みであったので、定期的・継続的な取り組みにしていく必要がある。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?		7	3		10
② 本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	2	8			10
③ ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?	1	8	1		10
④ 本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	1	8	1		10
⑤ 共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	1	8	1		10

できている点

200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

①利用者にもよるが、フェースシート・ケース記録・本人・家族・スタッフ間の情報より得ることができ把握している。また、モニタリング等にスタッフも同行し自宅での様子や生活暦等、さらに情報を得ることができた。②本人のペースに合わせてながら、極力無理強いせず、かめやん家等対応可能な介護の提供は工夫しながら対応できていると思う。また、本人の日々の状況や気持ち、体調変化等にも気づき、ミーティングや申し送り等で話し合い対応している。③本人の表情や行動、しぐさ等により感じ取った本人の状態について、スタッフの気づきや思い等も含めて、どうすれば良くなるのか話し合い、意見交換している。④小さな異変にも気づき情報交換、共有している。また、必要に応じて看護師や医師へも相談し、都度、対応している。⑤その時々本人の状況に合わせて、気分転換の為に外出へ誘ったり、体調が優れない時は、泊まりサービスにて対応する等、サービスを臨機応変に提供している。

できていない点

200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること

①利用者によってはわかりづらい方もいたり、全利用者の生活習慣を10個以上は把握できていないこともある。スタッフ同士の捉え方の違いもあり、全利用者の生活習慣を共有できていないこともある。また、自宅と施設利用時とを連動して考えられていない部分や、その利用者の状態・環境のなかで取り組めていない方もいる。ケアプランに生活面など身体面以外の部分が反映されていない為、アプローチが少なくなるのも原因と思われる。④⑤その都度、即時的には完璧には出来ていないこともある。スタッフ自身が気づかなかったり、それらを必要だと感じたり意識したりができていないこともあり、後手になってしまうこともある。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

2と同様に、定期的かつ継続的にケアマネジャーのモニタリングに担当のスタッフも同行し、家族との信頼関係を深め、情報を引き出していく。前回、せっかく取り組んだ内容が、うまく記録として残せておらず、スタッフ間で共有できていないこともあったため、しっかりと記録に残し、情報共有できるシートの作成をすることで、形として残していく。また、本人・家族の思いや意向を理解し、スタッフ同士でもケアの方向性や捉え方等を、できる限り統一していく。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成28年1月9日 (21:00 ~22:30)
4. 地域での暮らしの支援	メンバー	中川佑治 柳田裕子 寺田美枝子 小池愛 若松健司 東田良弘 西井孝昌 一色京子 大浦由紀 浜道美由起 中西暢久 田口めぐみ 山縣弘美

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	9人	1人	人	10人

前回の改善計画	利用者によっては、本人の自宅での様子が見えづらいため、様式2・3と同様に、本人の生活面・人や地域とのつながり・なじみの環境を情報収集し把握に努めていく。また、スタッフ自身が地域の資源等の理解や把握をできていないこともあり、勉強会を開催し理解を深めるよう努めていく。かめやん家の周辺の地域とは連携を図れてきているが、かめやん家とは違う地域に住んでいる利用者においては、まだまだ連携が図れていないのが現状である。すぐに連携を図るのは難しいと思うので、一度、かめやん家の周辺以外の利用者の地域の行事や喫茶等に、本人と参加することで、本人の人間関係やつながりを理解していくきっかけ作りをしていく。その中で、かめやん家中心ではなく、その人を中心した支援を心がけ、在宅生活を続けていくために必要な家族や地域との関係づくりの支援も行っていく。
前回の改善計画に対する取組み結果	地域の資源を理解や把握するための勉強会等の開催はできていないのが現状である。また、かめやん家の周辺地域との関わりは増え、行事等に参加することで、新たな人間関係の発見やつながりが見えてきている。また、今までの関係が切れないようにしているが、かめやん家の近隣以外の利用者に対して、その方の地域への行事や喫茶等に参加する等のアプローチはできていない。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?		9	1		10
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?		9	1		10
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?		4	6		10
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?		1	9		10

できている点	200字程度で、できていること、その理由を記入すること
①全てにおいて理解や把握はできていないこともあるが、モニタリングや送迎時等で家族や利用者とは話し、得た情報をもとに理解はできている。自立度の高い方は本人の言葉や行動より理解している。②利用者により地域との関わりは差はあるが、ホームで抱えこまないように、家族に任せれるところは任せたりと対応している。行事の参加を促したり、地域の方とは、つどいや地域の喫茶やサロン等の行事により関わられるよう支援している。③訪問の対応が必要な方は、自宅での生活がある程度見えており把握している部分もある。④地域の病院や薬局、訪問理美容等のサービスは活用しているが、他の生活に特化した資源の活用までできておらず、家族やホームにて対応していることの方が多くのが現状である。	

できていない点	200字程度で、できていないこと、その理由を記入すること
①利用者によって分かっていく所もある。また、身体面や精神面でのケアが中心となっている部分もあったり、ホームでの生活や様子が中心となってしまっている。利用者のなじみの環境や地域のコミュニティ等も理解して対応して行く事が必要である。②地域性もあり、本人の地域での活動が把握できておらず支援できていないことも多い。また、その方にとってどれだけ必要なのか、必要性の有無についても話し合う必要がある。利用者によっては、かめやん家での生活が中心となってしまっている方もおられ、ホームで抱え込んでしまっている方もいる。③送迎に行かないスタッフは、本人や家族、他のスタッフからの情報のみで、実際に利用者が自宅でどのように過ごしているのか、かめやん家から遠い利用者ほど、自宅の様子が見えにくい方もいる。また、スタッフ自身が知らない事や知ろうとしていないことも多くみられている。④ホーム長やケアマネジャーは把握できている部分はあるかもしれないが、スタッフ間では、本人の各地域の民生委員や地域資源等の理解や把握はできていないこともある。特に、かめやん家付近の町会ではない利用者については、町会等の地域のコミュニティーの把握、必要性の有無等、話し合う機会も少なく活用まで至っていない。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
スタッフ自身が地域の資源等の理解や把握ができておらず、勉強会の開催もできていないのが現状である。地域性を理解することで、利用者への関わり等にも活かせることにつながるかもしれないので、スタッフ間で勉強会を開催し取り組んでいく。また、引き続き、地域の方との挨拶やコミュニケーションを積極的に行っていくことや、行事等の参加を促すことで、利用者とのつながりが切れないう支援していく。かめやん家の近隣以外の利用者の方については、その方と地域との関係性や、背景等がみえてきていないこともあるのが現状である。また、利用者自身が求めているかもわからない為、関わりの中で訴えがあれば、随時対応ができるようにしていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成28年1月9日 (21:00 ~22:30)
5. 多機能性ある柔軟な支援	メンバー	中川佑治 柳田裕子 寺田美枝子 小池愛 若松健司 東田良弘 西井孝昌 一色京子 大浦由紀 浜道美由起 中西暢久 田口めぐみ 山縣弘美

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	人	9人	1人	人	10人

前回の改善計画
様式4と同様に、地域の資源をより活用し支援できるようにするために、地域にどういった資源があるのかをスタッフ間で勉強する。そのなかでかめやん家のサービスや既存のサービスで解決するのではなく、違った角度からも提案をし対応ができるようにしていく。また、家族の意向が中心にならないよう(特に、重度の認知症の方)に、本人の状態や意向、想い等に合わせた支援ができるように、ケアマネジャーのモニタリングに各利用者の担当スタッフが同行し、家族と話し合いをしていく。
前回の改善計画に対する取組み結果
地域の資源を理解や把握するための勉強会等の開催はできていないのが現状である。ケアマネジャーのモニタリングにスタッフ同行し、想いを確認したりはしているが、利用者によっては、家族の意向が中心になってしまっている。モニタリング時の担当スタッフの同行に関しては、単発での取り組みであったので、定期的・継続的な取り組みにしていく必要がある。その中で、家族の想いを理解した上で、本人の意向にも沿えるよう、ケアマネジャーや利用者の担当スタッフ中心に、提案や働きかけをしていきたい。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	1	9			10
② ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	6	4			10
③ 日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか?	2	8			10
④ その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	3	7			10

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
①かかりつけ医やリハビリ等の医療機関、薬剤師、訪問歯科、訪問理美容、福祉用具等を活用し在宅生活の継続を支えている。直接的な介護は、ホームが担う形になっているが、ご近所や家族の協力を引き出すようアプローチは出来ている。利用者によっては近隣の住民から情報をもらうこともある。②利用者や家族と話しをし、ニーズに応じてその人に合った利用方法が妥当に提供出来ていると思う。③ミーティングや申し送り、カンファレンスにて、スタッフ間で共有している。④その時々都合や想いも含めて予定を変更したりと対応している。本人の体調に合わせて訪問や通院したり、通いサービスから訪問サービスに予定を変更したりと柔軟に提供できている。空きがあれば急な泊りにも対応している。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
①かめやん家のサービスで解決しようとしていることがある。医療機関や薬剤師、福祉用具等のサービス以外のボランティアや近隣住民、友人、町会、地域の自主事業等の、他の資源の活用ができていないことがある。②本来であれば、もっと本人の意向や希望に沿った対応が望ましく、家族の意向に対して本人がどう感じているのか分からない部分もある。そのため、家族の意向やホームの都合も考慮したサービスの提供になってしまっている部分もある。③個々のスタッフによって気づきや想いが異なることにより、共有できていない情報もある。また、記録の抜けや必要な記録が不足していることもある。新しいスタッフが入ったことにより、もっといろいろな面で気づきも増えるので、さらに記録や情報交換し共有することが必要になってくると思われる。④家族の想いもあり本人のニーズに添えていないことがある。もっと本人のことを知ることで、形にとらわれない柔軟な対応ができると思われる。利用者の体調や状態の変化に対して早急な対応ができていないケースがあり、スタッフ間での気づきや危機感の違いもあるのが原因と思われる。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
4と同様に、地域の資源等については勉強会等の開催にて、知識を広げていく。利用者によっては、かめやん家のサービスのみで解決しようとし抱え込んでしまっている部分があるので、できないところはできないと、地域資源の活用等の検討をしたり、家族への協力を働きかける等、アプローチをする。そうすることで、利用者が長く在宅生活を継続できるよう、方向性を統一し、共に協力し支援していきたい。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成28年1月9日 (21:00 ~22:30)
6. 連携・協働	メンバー	中川佑治 柳田裕子 寺田美枝子 小池愛 若松健司 東田良弘 西井孝昌 一色京子 大浦由紀 浜道美由起 中西暢久 田口めぐみ 山縣弘美

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1 人	9 人	人	人	10 人

前回の改善計画	
①については出席の有無に関わらず、会議の開催をし、出席していただけるよう必要性等伝え、働きかけをしていく。②について、現状、連絡会や会議等の参加は管理者以外のスタッフの参加があまりできていないこともあるため、参加できるよう、シフト調整をしていく。運営推進会議にも参加できるよう調整していく。③については、様式と同様に、かめやん家と地域の異なる利用者に対して、かめやん家周辺の活動だけでなく各利用者の住んでいる町会にも参加できるよう対応していく。④は、つどいを開催し、高齢者はかめやん家に訪れる環境づくりが出来てきているが、子ども等が訪れることはほとんどないので、ホーム内でも年代にあわせた行事等の開催、ボランティアの受け入れ、小中学校との連携を図るためにも職場体験等の受け入れをし、様々な年代の地域住民が訪れやすいように取り組んでいく。	
前回の改善計画に対する取組み結果	
実際にDrや福祉用具の担当を交えてのサービス担当者会議を行う機会が増えてきた。参加できない場合でも、事前に照会を求め、リハビリの職員等からも意見をいただいている。運営推進会議についても、管理者だけでなく、スタッフも順番に参加してもらっている。かめやん家周辺の地域の活動やイベントには比較的参加できているが、周辺以外の利用者の住まいの町会の活動には、参加できていない。また、地域の高齢者は、ホームのつどい等に参加し、ホームに訪れる機会はふえているが、子ども等の他の年代が訪れることはほとんどなかった。年代に合わせた行事、職場体験やボランティアの受け入れ等、アプローチができていないのが原因である。	

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	その他のサービス機関(医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所)との会議を行っていますか?		10			10
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか?		6	3	1	10
③	地域の各種機関・団体(自治会、町内会、婦人会、消防団等)の活動やイベントに参加していますか?	1	8	1		10
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか?		9	1		10

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
	①少しずつではあるが、医師や看護師、福祉用具の担当者等にも参加を促し、開催することが出来てきている。出席できない時には、照会にて意見をいただいている。薬剤師等には、必要な時に、随時、意見をいただいている。②基本、ホーム長が町会の会議や連絡会、防災への取り組みに参加している。運営推進会議については、スタッフも参加するようになってきた。③地域開催の避難訓練や防災等の取り組み、夜警への参加。保育園児との交流会の開催、小学校のクリスマス会や七夕等の行事、地域のふれあいサロン・喫茶、だんじり、もちつき等の交流の場に参加している。④毎月のかめやん家のつどいを開催し、近隣の住民が参加している。また、日頃の挨拶だけでなく言葉のやりとりもあり良い雰囲気づくりや交流ができていく。保育園や小学校の行事等への参加はできている。

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
	①他のサービス機関(歯科等)にも働きかけが必要であり、色々な視点から深く話し合いをしていく必要がある。②なかなかシフト上や日常の業務等もあり、スタッフの参加は難しいため、ホーム長以外のスタッフの参加ができていないことが多い。③スタッフの人数、ホームの利用者の対応や行事等の予定等があり参加できないこともある。また、昨年度と同様に、かめやん家と町会や地域の異なる方に対するアプローチができていない。各利用者の住む町会との連携を図り活動にも参加して行く事が必要である。④子ども達が訪れることはほとんどない。ただ、近隣の保育園や小学校の行事には参加し交流している。

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
	本人を取り巻くかめやん家以外のサービス事業所や担当者との会議を行う機会は増え、意見を頂くことも多くなってきているので、継続していく。運営推進会議にも、地域住民の参加や管理者以外の職員の参加も出来てきたので継続していく。地域の高齢者との関わりは、かめやん家のつどいや地域の行事等で増えてきているが、子ども等の他の年代とのつながりが少ない。保育園との交流会は出来ているので、小学校や中学校とのつながりや協力体制ができるようアプローチをしていく。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成28年1月9日 (21:00 ~22:30)
7. 運営	メンバー	中川佑治 柳田裕子 寺田美枝子 小池愛 若松健司 東田良弘 西井孝昌 一色京子 大浦由紀 浜道美由起 中西暢久 田口めぐみ 山縣弘美

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1 人	9 人	人	人	10 人

前回の改善計画

①なかなか意見を言うことが苦手なスタッフもいるのは現状である。個々の知識や経験等、スキルアップをすることはもちろんのこと、人前で話をする事にも慣れていただけるよう、外部の研修や会議等の参加を通じて、発表する機会の確保をしていく。また、ホーム内の会議においては、次の検討する課題やテーマを事前に周知する事やアンケート等の活用により意見を引き出していく。②③については、窓口を増やすと、対応の混乱を招くおそれもあるので、引き続き、管理者やケアマネジャー中心となり対応し、スタッフに周知し対応等を見直し改善していく。④地域のボランティアの受け入れをしていくためにもボランティアの受け入れに対するスタッフの知識や意識を深めていく。引き続き、ついででの講座の開催を継続すること、消防訓練や防災についての取組み・連携を図っていくこと、町会への協力も随時おこなっていく。

前回の改善計画に対する取組み結果

意見を言うスタッフは偏りがあるため、もっと意見を言いやすい環境を作っていく必要がある。その中で、考えることや意見を言うことの大切さ、他者の意見を聞く大切さ、また、様々な経験を積むことが出来るような環境にしていきたい。新しいスタッフも増えてきたので、外部研修にも参加できる機会を確保していく。他者からの意見や苦情については、管理者とケアマネジャーが中心となり対応している。しかし、二人とも不在の時の対応や、スタッフが利用者から言われたことや対応が悪かった時等の認識が甘く見過ごしてしまっている部分もあり課題はある。ボランティアについては、少しずつ受け入れが出来てきた。ただ、まだまだ受け入れが少ないことや、受け入れに対するスタッフ間での認識が低いので、高めていく必要がある。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができますか?		7	3		10
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	5	5			10
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	4	6			10
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?	7	3			10

できている点

200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

①日頃よりコミュニケーションをとり、情報や意見を交換し、その都度、ホーム長にも相談している。また、ミーティング等でも、以前より意見を言いやすい雰囲気が出ており、新しいスタッフも少しずつ意見を述べる事が出来ている。②苦情や意見はすぐに当事者にも確認し、ホーム長やケアマネジャーを通じて、直接、スタッフや皆での話し合いが必要な場合は話し合いをして早急に対応している。③地域の方からの意見や苦情等、都度、専門的な目線で早急に対応している。④毎月、かめやん家のついでを開催し、「認知症について」「AEDについて」「防災について」「介護保険について」等の講座を実施している。また、AEDの設置や福祉避難所の協定(行政、町会、施設間の三者協定)を結んでいる。ボランティアの受け入れ等も出来てきている。

できていない点

200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること

①なかなか意見を言うことが苦手なスタッフから引き出すのは難しいし、意見を言うメンバーは決まっていることもある。また、それぞれ大きなくくりでは理解しているが、価値観や感覚・経験等も異なり意見の食い違いもあり、まとまらないこともある。新しいスタッフも増えたので、意見や想いを引き出していく必要がある。②③意見や苦情等にしてもホーム長・ケアマネジャーが窓口となり対応しているが、不在時の対応や、スタッフが利用者から言われたことを苦情として受け止めておらず認識が甘く見過ごしてしまっていることもある。④地域のボランティアの受け入れが少ない。スタッフ間のボランティアの受け入れに対する認識が低いので高めていく必要がある。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

引き続き、管理者を中心に意見を言いやすい環境を作っていく。また、管理者は職員から意見が出たことに対しては、何かの答えは必ず返すようにしていく。個々の職員については、考えることや意見を言うことの大切さ、他の職員から意見を聞く大切さを知り、様々な経験を積むことができる環境を作っていく。そのためにも、外部研修等の参加の機会を増やし、他事業所の取組み等を聞いたりすることで、ホームの取組みにも活かし、個々の職員のスキルアップを目指していきたい。ボランティアの受け入れ等については、少しずつ受け入れが出来てきてはいるが、職員自身が必要性や知識等、ボランティアへの理解がまだまだ低いので、勉強会等を通じて高めていく。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成28年1月9日 (21:00 ~22:30)
8. 質を向上するための取組み	メンバー	中川佑治 柳田裕子 寺田美枝子 小池愛 若松健司 東田良弘 西井孝昌 一色京子 大浦由紀 浜道美由起 中西暢久 田口めぐみ 山縣弘美

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	10 人	人	人	10 人

前回の改善計画

職場内研修においては、出席率を高めるため、管理者及び勉強会担当より、職場内研修の必要性・重要性等をスタッフへ働きかけていく。地域の連絡会や会議、外部研修は今以上にスタッフが参加できるようシフトの調整をしていく。連絡会や会議等にスタッフが参加できない場合は、どういった内容を話し合ったか、どういった動きになっているのか等、今以上に情報提供していく。リスクマネジメントについては、担当者を決め取り組んでいる。ただ、ヒヤリハットはできているが、活かせていないこともあり、どうつなげていくのかまだまだ課題はある。毎回の事だと慣れにならないよう、危機感をもちスタッフの意識を高めるよう外部研修への参加する。また、管理者及び担当者よりスタッフへ働きかけていく。

前回の改善計画に対する取組み結果

職場内研修については、出席率は悪くないが、まだまだ、スタッフによって意識の差があり、全員参加とはいかないのが現状である。外部研修については、シフトを調整し、経験年数に応じた内容の研修に参加する機会を増やしている。連絡会や会議等はスタッフが参加できていないことも多いが、必要な情報は伝えている。リスクマネジメントについては、ヒヤリハットがあがっていても、時間がなくそれについてのカンファレンスができていないことや、今後の対応等につながらず、取り組めていないこともある。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	研修(職場内・職場外)を実施・参加していますか	8	2			10
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	3	5	1	1	10
③	地域連絡会に参加していますか		4	4	2	10
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	2	8			10

できている点

200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

①②二ヶ月に1回、職場内で研修を実施している。また、それ以外にも必要に応じて実施することがある。外部の講師を招いたり、外部の研修にもスタッフが参加している。参加後は、職場内にて伝達研修を実施している。一定レベルの成果は達成されている。③ホーム長が地域の防災の集り、他の施設との連絡会等に参加している。④スタッフの中で担当者を置き、月1回は定期的にヒヤリハットについての報告会、話し合いを実施している。また、事故についても、都度、検証して対応している。研修を通じて、個々のスキルアップがリスクマネジメントにつながっていると思われる。

できていない点

200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること

①②外部研修はシフトの都合で人数にも制限があり、複数人の参加は難しい。ホーム内の研修は、月によって参加していないスタッフもいるのが現状である。その辺りにスタッフの意識や責任感の差がある。③なかなか複数の参加が難しくホーム長が参加しており、スタッフの参加はできていない。また、いつ連絡会があり、どういった内容で話し合いがあるのか把握できていないこともある。④まだまだ試行錯誤していることもあるのが現状である。ヒヤリハットや記録等について、「後で書こう。」「これくらいいいか。」等、スタッフ間によって意識や危機感の差があり情報がオープンになっていないこともあり不明瞭な部分もある。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

職場内研修については、まだまだスタッフ間で意識の差があるため、全スタッフが必要性を理解し参加できるよう目指していく。その中で、ただ出席するだけでなく、それぞれが自分の意見や考えを言えるような雰囲気作りや勉強会の内容にしていきたい。外部研修も、スタッフのシフト上、複数の参加は難しいが、1人でも参加する機会を作る。参加したスタッフはホームにて伝達研修を行い、施設としての理解へ結びつけていきたい。ヒヤリハットについては、毎月集計し、月に1回は話し合える場を作り、今後の対応や大きな事故につながらないように取り組んでいく。地域連絡会や他施設との連絡会等については、スタッフにも参加していただいたが、1回経験しただけであったりする為、何度か参加することで、内容を深めることが出来るようにしていく。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成28年1月9日 (21:00 ~22:30)
9. 人権・プライバシー	メンバー	中川佑治 柳田裕子 寺田美枝子 小池愛 若松健司 東田良弘 西井孝昌 一色京子 大浦由紀 浜道美由起 中西暢久 田口めぐみ 山縣弘美

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	人	9人	1人	人	10人

前回の改善計画
まだまだスタッフ同士の声かけ時、大きな声で利用者のことを言っている場面もあり、他の利用者に聞こえてしまっていることがある。もっとさりげない対応ができる様、スタッフ間で注意し合い徹底していく。また、「ちょっと待って。」と、つい言ってしまうことがある。スピーチロックを減らすのはもちろんのこと、「ちょっと待って。」と言った場合は、後でしっかりと利用者の想いに寄り添い対応やフォローができるようにしていく。成年後見制度の活用はしていないので出来ていないにチェックをしたスタッフもいた。必要な方には、早急に対応できるよう、引き続き準備をしていく。ケース類を使用した際、フロアーや事務所に置きっぱなしにならないよう、また、事務所を空ける場合は施錠する等、より適正な個人情報管理をしていく。
前回の改善計画に対する取組み結果
利用者のことをフロアー等で、他の利用者に関心する声で言ってしまうことは、まだみられているが、以前に比べて、スタッフ間で意識し少なくなっている。「虐待について」「不適切ケアについて」等、施設内研修や外部研修にて学ぶ機会もあり、スタッフ間で考え、理解を深めたりし、意識はしっかりとされている。まだ時折、スピーチロックといわれる、「ちょっと待って」等の声かけもあるが、後になり振り返ることは出来ているし、個々の利用者に対して、その時々に応じた気配りも出来ていることは多い。個人情報については、まだまだ勉強不足や意識が低いこともあり、ケース類を使用した際に、事務所の机やフロアーに置きっぱなしになっていることもあり、スタッフ間で注意し合っていないのも現状である。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 身体拘束をしていない	10				10
② 虐待は行われていない	10				10
③ プライバシーが守られている	1	9			10
④ 必要な方に成年後見制度を活用している	3	7			10
⑤ 適正な個人情報の管理ができている	2	8			10

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
①②基本的には身体拘束、不適切ケアや虐待等についての意識はしっかりとあり、身体拘束や虐待のないケアを行っている。また、スピーチロック等の不適切ケアについても研修を通じて理解を深めたり考えることはできている。③トイレ時、入浴時等の対応についてはさりげない声かけにて気をつけている。入浴時は同姓介助で対応している。④必要な方には前もって話しをし、早急に対応できるよう努めている。⑤個人のケースや保険証等の個人情報は事務所の鍵つきの棚にて保管している。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
①②利用者が危険と感じた時やスタッフが忙しくなっているときに、時折、「ちょっと待って。」等のスピーチロックが出てしまうこともある。また、認知症に対する理解不足の面もあるのか、利用者の言動や行動に対して、言い方がきつくなってしまっていることもある。③⑤スタッフの声かけやスタッフ同士の会話が本人や他の利用者に影響を与えていることを、もっと理解して対応するべきであり、スタッフのフロアーでの何気ない会話や排泄・入浴・食事等の確認の声かけが他の利用者へ伝わっていることが時折みられている。ケース類を使用した際、フロアーや事務所の机に置きっぱなしになってしまっていることが、多々みられている。④家族がいる方は、どこまで必要なか判断が難しい。また、どのタイミングで声をかけて勧めるのかも難しい部分がある。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
現状、身体拘束や虐待・不適切ケアについて等、勉強会をすることで、振り返ることは出来ている。引き続き、話し合いや勉強会等を継続し、意識や知識を高めていく。個人情報の取り扱いが雑な部分もあるのが現状である。利用者のケースを使用したら事務所におおす、名前を書いた書類や薬袋等はシュレッダーにかける等、当たり前のことを当たり前にできるように行っていく。意識を高めるために勉強会の開催をし、考える機会を作っていく。	